



▲左から濱田道水産林務部森林環境局長、松井町長、小泉 JT 代表取締役社長



「JTの森積丹」春の森林保全活動が開催 小泉日本たばこ産業㈱社長が初来町

第7回目となる森林保全活動が開催

6月14日に平成23年6月の初開催から第7回目となる日本たばこ産業株式会社（以下「JT」）と協働しての森林保全活動

動「JTの森積丹

2014春」が開催され、JT社員の皆さんのほか、町内外から約150名が参加しました。

今回は、美国川流域エリアで第1回目（平成23年）の際に植えた1,000本のトドマツの下刈り作業や作業道の側溝清掃、「JTの森積丹」ロゴ入りコースターの製作などに汗を流しました。今回参加いただいた方々の中には第1回目の活動の参加者も多数

参加していたことから、自分たちが植えた苗木の成長を見て感概深そうにしていました。

昼食には町観光協会より、つぶやエビなど海の幸が贅沢に使われた浜鍋や、ういを炊き込んだおにぎりなどが振る舞われ、積丹が誇る味覚に参加者からは感嘆の声が上がっていました。

午後からは恒例となっている河村博町環境生態系保全技術指導員による「森の課外教室」と題した講話が行われ、真剣に耳を傾けていました。

小泉社長来町、コンセプト際立つ積丹の森へ期待

また、今回はJTの小泉光臣代表取締役社長（右上写真）が初来町され、松井町長、濱田修弘道水産林務部森林環境局長とともにヤエザクラの記念植樹を行ったほか、町内各施設を視察されました。

濱田局長は挨拶の中で「海

を育む水源の森」というコンセプトは他と比較しても特に際立っている。」と述べるなど、「JTの森積丹」に対し、高い評価をいただきました。

初開催から4年目を数えたJTと協働しての森林保全活動、JT社長の来町は、平成23年11月に行った第2回の活動に木村宏前社長に参加いただいた以来2度目であり、日本のトップ企業の1つであるJT社長の来町は、道内唯一のJTの森であり、計画面積350haと全国9カ所のJTの森の中で最大規模を誇る「JTの森積丹」への大きな期待の表れと言えます。

来年度は5年目の年となり、計画面積155・32haと最も広い計画面積の「余別川流域エリア」の森林整備にも着手していきます。

今後もJTの皆さんをはじめ、関係機関の皆さん、町内外の住民の皆さんの協力をいただきながら、「森と川と海を繋ぐ『海を育む水源の森づくり』」の実現に向けた活動を行っていきます。





第23回

YOSAKOI ソーラン祭り

「合同チーム堂々の演舞」 北と南の絆、更に固く

6月7日、8日の2日間、

270チームが参加し、今年も大盛況となった「第23回YOSAKOIソーラン祭り」に今年も姉妹都市である高知県香美市との合同チーム「ヤーレンソーラン積丹町&香美市」を結成し、参加しました。

積丹町の幼児から83歳までの39名と香美市からの28名の計67名がソーラン節と鳴子のリズムによる演舞を披露し、両市町の交流と、応援に駆け付けて下さった札幌しゃこたん会の皆さんなど積丹町ファンとの交流を深めました。

また、今回は、本年4月に香美市長に就任された法光院晶一市長を団長とする訪問団7名と依光晃一郎高知県議会議員が来町され、町内を視察されるなど、今後の両市町の更なる交流の発展を確かめました。

今年で23年目となった北と南の姉妹都市交流、今後25年、30年と両市町民の交流の輪を更に広めていきたいと思います。



走って・笑って よーい、ドン!

各小学校運動会 開催 中学校体育大会

5月下旬から6月上旬にかけて、各小学校で運動会・中学校体育大会がそれぞれ開催されました。今年も走って踊ってと大活躍の「積丹っ子」、父母の皆さんも応援を送ったり自ら競技に参加したりと、終始歓声と拍手が響き渡り、地域をあげて盛り上がる楽しい一日となりました。

余別小学校 (6月1日)



野塚小学校 (5月25日)



▶ 美国小学校 (5月24日)



▶ 日司小学校 (6月8日)



▶ 美国中学校 (6月7日)

